

活動報告：ぶんぶんクラブ

1. 「ぶんぶんクラブ」のねらい

平成27年度から子ども子育て支援新制度が本格的にスタートした。これまで我が国では、様々な子育て支援ニーズに応えるべく支援のあり方を模索し形にしてきた。このたび、施行された新制度もこの一環ではあるが、これまでより一層、妊娠・出産から育児、子どもの自立まで切れ目のない支援を行うことを目指している。

この切れ目のない支援を実現するためには、単に子育てサービスを充実させるだけでなく、いかに地域の中で長期的に一人ひとりの子どもの成長を見守るかが鍵となってくる。子育て家庭と地域の様々な世代、そしてこれから親になるであろう若者世代がつながり、子育てしやすい地域づくりとは何かを共に考え続けることが重要な取り組みである。そのためにも、地域の人々が交流し合う機会、自分の子どもでなくとも世話をして育てる機会、を確保することが必要であろう。

本学で取り組む「ぶんぶんクラブ」は、こうした新制度の流れを鑑み、地域の子どもたちと大学生が日常的に触れ合うことで、地域の中に様々な世代の人々とのつながりをつくり、子育てしやすいまちづくりを地域の人々と共に考えていくことを目指したものである。

具体的には、幼児は、幼稚園の保育中および園庭開放がおこなわれる午後2時以降から夕方、児童は、学校時間外の夕方の保護者の帰宅を待つ間、大学生とふれあう時間を持つ。「ぶんぶんクラブ」のこうしたふれあい活動は、子どもたちに大学生との遊びや勉強を通じて充実した夕方の生活を提供し、大学生に子どもたちとの日常的なふれあいを通じて子ども・子育てへのリアリティの体感・教育的視点を提供している。

また、「ぶんぶんクラブ」の活動は、地域の子どもたちと大学生がふれあうことで、地域の中で安全に開かれた小学校と大学が、ともに多世代交流の拠点となり、地域の集いの場となることも目指している。その中で、子ども・青年・あらゆる世代が一緒に子育てする地域づくりを模索できればと考える。

2. 「ぶんぶんクラブ」の2015年度活動状況

「ぶんぶんクラブ」の活動は、1で記したねらいのもと、ボランティア学生とりわけレクリエーション・ボランティア研究会のメンバーを中心に、地域の幼稚園や児童館、公民館などとの交流活動を展開している。1年間の主な活動状況を以下に示す。

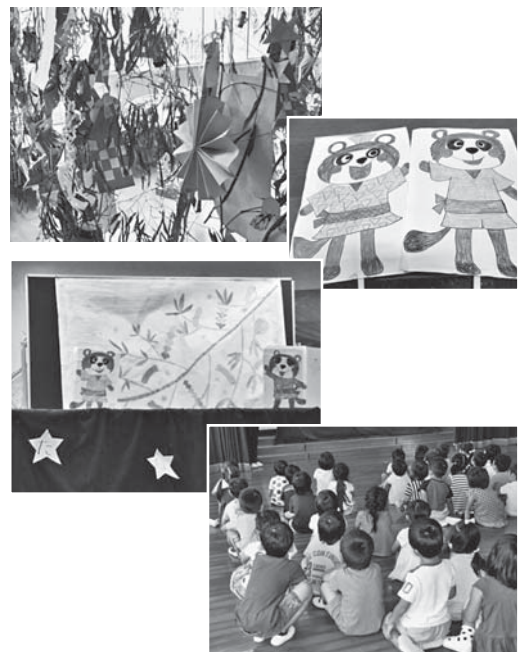
- ・児童館との交流：年間不定期に数回（宿題指導、遊び、卓球指導、一輪車指導など）
- ・幼稚園との交流：年間不定期に数回（保育補助、遊びなど）
- ・幼稚園・児童館・公民館などでの出前劇（七夕やクリスマスなど）

本年度は、幼稚園、児童館での交流活動回数が授業の組み合わせが悪く、例年より少なめであった。しかし、年間の大きな行事には、必ず参加するように努力し活動した。

(1) 幼稚園での出前劇実践例

七夕会

7月6日（月）広島市立長東幼稚園
 たなばたについてのお話 …………… 園長
 自分のねがいごと …………… 5歳児から
 4歳児は当番
 学生のねがいごと …………… 6人のねがいごと
 ペーパーサート
 「たなばたウキウキねがいごとの日！」… 学生
 子ども学科3年生5人、2年生1名
 たなばたの笹飾り前での写真撮影



学生は、子ども達の反応にうれしくて、一生懸命頑張っていました。「すごく緊張した。」と言っていました。「顔を出してなくても緊張し、声がおっていたか心配です。」と子ども達のことをやさしく心配していました。園の行事の一つの貴重な体験をすることは、子ども学科の学生としても勉強になっています。

子ども達から先生方から感謝され、とても良い気持ちで学校に帰りました。7月7日の七夕、織姫と彦星が会えますように！みんなの願ごとが叶いますように！

(2) 幼稚園での節分の集い

2月3日(月) 広島市立長東幼稚園
 節分についてのお話 園長
 鬼の登場
 福の神の登場
 豆まき 子ども学科3年生5人、2年生1名

リアルな鬼に子ども達は、喜ぶ子、逃げ回る子、半信半疑に鬼に近づく子といろいろな姿が見られた。

(3) 児童館祭り

11月14日(土) 10:00~ 長東西小児童館
 教職員・学生が忍者になる。
 児童は各コーナーにある遊びにチャレンジする。

(4) クリスマス会

12月17日(木) 14:30~ 長東西小児童館
 音楽科の演奏
 子ども学科によるレクリエーション・プレゼント
 サンタ登場 子ども学科3年生3名
 クリスマスプレゼント 1・2年生手作り



← 一・二年生の
 手作りのプレゼント



3. 今後の課題と将来構想

現在、地域の児童館や幼稚園、公民館のご協力のもと多くのつながりが見いだされている。学生と子どもたちとの関係性は長期的で継続的なものになりつつあり、地域の中でそのつながりの存在が求められるようになってきている。その中で、日々自分たちができることを精一杯することでその重要性を認識している現状である。

ただし、様々な世代が共に子育てしやすい地域づくりを考えるという目的を達成するためにはさらなる活動の展開が必要となると考えるのは継続である。

例えば、大学が地域に対してオープンな施設となり、様々な世代が地域のまちづくりを考える機会を提供していくことも大切な取り組みである。

支援に積極的に向き、地域との垣根を取り払いつながることこそ安心・安全なまちづくりへの大切な一歩であることを教えてくれた。もし、『子育てしたくなる地域づくり』にむけて、大学が地域全体でつながることの魅力を次世代に伝えることが出来たならば、未来へ向けてより安全で安心なまちづくりへ一役担うことができるのではないかの考えは今まで同様である。

最後に、大学生は日常的な子ども達との交流により、地域の人々とのつながりの大切さや子ども・子育てのリアリティを実感している。そして、自分たちが地域の担い手になるという意識も高めつつある。「ぶんぶんクラブ」の活動を通じて大学生という次世代の子育てパワーを活用し、『子育てしたいまちづくり』を大学から地域に発信していくことが重要な取り組みになると思われる。そしてこの取り組みは、今後の地域活性化の一つの大きな原動力になるとことを確信しているところである。

(文責：学芸学部 子ども学科 佐々木尚美)